

とよなか

全教豊中教職員組合

原発と日米同盟強化路線から撤退を！

原発再開を狙う
民主党政権

経験福島原発の事故を
めぐる声が大々く広が
て、います。ドイッ政府
は、二〇二二年までに
原発から全面撤退する
ことを決定し、発電量
の四〇％を原発に依存
して、いるスイスも撤退
を決めました。

を、どんな事態が起こつ
ても原子炉の内部に閉
じ込めておく手段を未
だに獲得していません。
世界有数の地震国で
あり、津波国である日
本に原発を集中立地す
ることは極めて危険で
ある事を今回の福島原
発事故は明らかにして
います。

また、民主党政権は
普天間基地に代わるV
字型滑走路の新基地を
辺野古に建設すること
を日米安全保障協議委
員会で合意しました。
自公政権から民主党
政権に代わっても何も
変わらないアメリカ言
いなるの、日米同盟強
化路線に反対する声は
沖縄はもとより全国に
広がっています。

闘う労働組合(全労連・
全教)を大きくしよう！

● 配備
● オスプレイ普天間
● 辺野古「V字」
● 新基地建設合意

訪北澤防衛相は沖縄を
が、垂直離着陸輸送機M
二二オスプレイを二
一二年に十二機、二

でも運動面でも「連合」
が支えている下で、全
労連・全教を大きくし
ていくことが原発と日
米同盟路線からの撤退
の上で重要になっていま

な！ 送るに戦場を再び

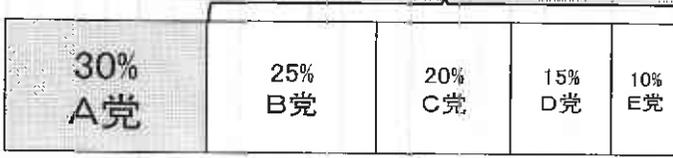
橋下知事、大阪維新の会は、 大阪をどうしようとしているのか？

4月の大阪府議会選挙で、議席の過半数を獲得した橋下知事が代表をつとめる大阪維新の会。信を得たとは

多数の声が、届かなくなる！

定数1なら

70%の有権者の声が死票になる事態も



かりに、先の府議会で強引にいくつかの条例を成立させました。

ツイッターの中で、知事は「議員の身分を失わせる定数削減案と教員（公務員）の行動に枠をはめる議案。単独採決しても府民無視でも何でもありません。」（6/8）と述べています。

定数削減—民意切り捨てるの民主主義の問題

「議員を減らせ」という声は、確かに府民や国民の中にもあります。しかし、今回の2割の定数削減は「議員の身分の問題」ではなく、民意が切り捨てられる民主主義の問題です。

4月の選挙で「維新の会」の得票は投票数の約40%。しかし獲得議席は過半数越

え。大阪府議会は選挙区定数1〜2人が中心。今回の定数削減で、さらに一人区二人が増え4月府議選結果を当てはめると、維新の会は60%超える議席を獲得することになります。

民意を正確に反映しない選挙で獲得した議席で、府民の信を得たとばかりにさらに「維新の会」の考えを強行するおそれがあります。

「君が代起立条例」— ねらいは子どもたちへの 愛国心の強制と教職 員の統制

条例は教職員の服務規律を厳格にするといっています。さらに、条例の目的（ねらい）に「府民、とりわけ子どもたちが伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する意識の高揚に資する」としています。

知事はツイッターで「教育現場が治外法権となつ

ている。これを正すには、教育行政における職務命令を強化するしかない。」

「校長の職務命令を徹底的に強化しようと思っている。」（6/13）

「教育は強制であるとはつきりと位置付けるべきである。」（6/12）

「教育の基本は強制。社会のルールを教えるというのは強制」「教育とは2万%強制」（6/12）

等述べています。

教職員だけでなく、子どもたちにも強制する教育を進めようとしていると言えます。



全教豊中第125回定期大会開催

6月10日、福祉会館において、定期大会が開催されました。

池田委員長は挨拶の中で、「君が代起立強制条例」と、審議もなく維新の会の賛成だけで強行した府議会議員の定数削減を批判し、多数の横暴を許さない取り組みを強めるために、全教を大きくする必要を述べました。

三輪書記長は、映像を交えながら
・3月18日の震災緊急募



金活動

- ・勤務時間の途中で。休憩を取る大切さ。そのため定数増を。
- ・君が代起立の強制条例の目的は、子どもたちに愛国心を植え付けること。
- ・文科省が作った副読本が原発安全神話に基づくものである事。
- ・評価育成システムが改悪され一層管理が強まる。廃止しかない。
- ・1年間の組合活動を報告しました。

意見交流では
・大教組女性部
に行き、各単
組みんなが
ばっている
と知りまし
た。
(高川小)
パワーア
ップ
講座に若い人

を誘って一緒に参加するようになった。

- ・千成小
手作り・持ち寄りの「ドラえもん」の魅力。
(野畑小)
- ・講師の待遇を正規教員と同じに。(少路小)
- ・「君が代起立強制条例」について職場の若い人に聞いてみました。(少路小)

などの発言がありました。その後、今年度の方針を圧倒的多数で採択しました

全国学テの中止になった予算を震災復興に

東日本大震災で中止された今年度の全国学力調査。文科省によると、調査用紙は希望校のみの配布とあるにもかかわらず、豊中市

教委は、「全校に配布する。」と回答しました。

豊中市は、もともと抽出校のみの参加としていたのに、「配布する学校」としてない学校があるのは・・・というあいまいな理由で全校配布を決めたのです。

学テの問題は、文科省のホームページで公開されません。配布する必要はありません。

市教委は「何らかの形で『活用』してほしい。」と言っていますが、すでに6月14日に全校対象の府学力テストが実施されており、進路指導やテストで忙しい中3や授業時数確保の難しい6年生には大きな負担を強いることとなります。無駄な予算は、震災復興のために活用すべきです。



連続教育講座「POWER UP講座」第2回
 体育実技講座 やってみよう「フライングフットボール」

一人ひとりに

《やくわり》がある
 ボールが苦手な子も
 はまる

5月14日、豊中第一中学校で、講師に庄内小学校の中西良介さんをお迎えし、体育の学習指導要領に取り上げられた「フライングフットボール」の模擬授業講座を開催しました。



まず、フライングフットボールの基本ルールについて説明を受けた後は、「しつぱとり」「パスゲーム」「円陣ぬき」「宝はこび」などの基本の練習。そして、2チームに分かれて、対戦。

一番の特徴は「ハドル（作戦会議）」↓「ブレイク」。円陣を組んで簡単ミートイングのあと「ブレイク！」と叫んで1本締め。チームの一体感アップ!!

「右かべ作戦」「はなび作戦」など、自分たちのチームに合った作戦を工夫する中で、ボールに苦手意識を持つ子どもにも役割りが生まれ、自信が持てました。



参加者からは

「とても魅力のある教材だと思いました。段階をおつてどんどん発展させていくことができるところが教師にとっても学びがいがある競技だと思いました。」

(箕輪小)

「友達と話さないと勝てないし、話したくなる、というところがポイントだと思

ました。」(小曾根小)

「今日は実際動けたのでよくわかりました。一人ひとりの役割りがあることがすばらしい。」(熊野田小)

「運動だけではなく、作戦を仲間と考えるなど、コミュニケーション力が大切となる場面が多く、様々な力をつけることができると思いました。」(熊野田小)

